

感謝！臨海学校サポートのOB・OGの皆さん

副校長 細井宏一



今回は、臨海学校に指導補助としてきているOB・OGの活躍ぶりを、感謝の気持ちを込めて、全校の児童や保護者の皆さんに紹介します。

臨海学校では、児童が安心して思い切り挑戦できるよう安全に万全を期して実施しています。レスキューチューブ、ライフジャケット、トランシーバー、ボート等の水泳練習に関わる用具、防寒対策・熱中症対策用品、救急用品、AED などなど、様々な物品を浜に運び準備します。また児童の様子を多くの目で監視し、きめ細かく指導するためにも人員が必要です。教員だけではやりきれません。



そこで、本校の卒業生(OB・OG)が、指導補助員として来てくれています。仕事は多岐に渡ります。上述の膨大な用品・用具の準備・片付けと海での水泳練習指導補助が中心ですが、それに留まりません。練習合間の水分補給準備や海水温の計測、早朝に浜に行行って旗を立てて場所取りもしてくれます。寮生活もサポートしてくれます。寮の足洗いシャワー、風呂掃除、食事時の配膳やおかわり対応、一緒に食べて児童の様子もつかんで教員に伝えてくれます。和楽会ではOB・OG自らも出しものをして盛り上げてくれます。児童就寝後の全体ミーティングに参加し、その後も児童のしおりをすべて読んで、一人一人にコメントを書いています。朝から夜まで、献身的に活動してくれていて本当に感謝です。



かつてこの指導補助は、東京学芸大学柔道部の学生さんが長きに渡り来てくださっていました。25年程前のある年のこと、柔道部の学生さんが十分に集ま

らない状況になったことがありました。困っていたところ、当時のOBの方が手伝いを申し出たのが始まりです。それから次第にOB・OGの中で声かけが広がり、泉友会もバックアップしていただき、今のようにすべてOB・OGがサポートして下さる形になりました。柔道部からOB・OGに変わっていったとき、体力的にどうかと心配する声もありました。初期の方は特に大変だったと思いますが、用具準備や指導補助に留まらず、それはそれは熱心にサポートをしてくださいました。教員にとってもOB・OGは元教え子の方もいて、コミュニケーションがとりやすいよさがあります。そして何より、OB・OGは自分が小学生の時に臨海学校・遠泳を経験しているということがとても大きいものでした。

遠泳前に不安でいっぱいの子供がいたときのことです。あるOBは、自分が小学生のときも不安があったけれど乗り越えられた経験を話し、「君ならできる」と励ましてくれました。遠泳中、その児童の隣でずっと泳いで声をかけ続けます。その児童は見事に泳ぎ切り、浜に上がったときは達成した喜びに溢れていました。OBの目からも涙がこぼれました。自分が小学生のときに遠泳を経験しているだけあって、彼らの言葉は児童の心に説得力をもって響くのです。彼らのサポートで遠泳を安心して泳ぎきり、自信をもつことができた児童が大勢いるはずで

今年も延べ45名のOB・OGが来てくれました。ベテランから大学1年生になったばかりの新しいメンバーまで。中には、既に就職していて、わざわざ有給休暇をとって参加してくれている方もいらっしゃいました。本当に頭の下がる思いです。

私は、臨海学校があること、そしてサポートしてくれるOB・OGが存在すること、これは本校の代えがたい大切な財産であると思います。これからも、OB・OG組織の継続発展を祈念しています。そして更に、現在の児童の中にも、将来、OB・OGとして臨海学校のお手伝いに、多く皆さんがきてくれることを期待し、希望しています。